

子宮頸がんの予防について



徳島大学病院
周産母子センター講師

にしむら まさと

西村 正人氏

子宮頸がんはこ
こ二十年の間に
若年化しており、ピークは三十五
四十五歳になっていきます。ヒトパ
ピローマウイルス(HPV)の感染が子
宮頸がんのはじまりです。HPVの
感染は多くの場合一過性に終わりま
すが、10〜20%程度の方は感染が持
続し、子宮頸がんの前癌状態である
異形成が発生します。異形成になっ
ても半数は自然に治りますが、進行
した場合上皮内がんを経て浸潤癌と
なります。異形成が発生して、浸潤
がんになるまでに五〜十年かかるの
で、この間に発見すると簡単な治療
で治ります。子宮頸がんの予防法は
二つ。HPV感
染を予防する子
宮頸がんワクチ
ンの注射と、定
期的な細胞の検
査です。子宮頸
がん健診を2年
に一度は受けま
しょう。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ がん診療連携センター: Tel.088-633-7312

がん相談支援センター

相談窓口 Tel.088-633-9438

徳島がん対策センター

<http://www.toku-gantaisaku.jp/>